

## § 6. 『安全なモビリティ社会の実現について考えよう』

主題 「どのようにすれば安全なモビリティ社会を実現できるであろうか」

1. 写真を見て考えよう。



WS1-(1)

ア) 上のAとBの写真を見て、「ここが危ない」と思ったことを書いてみよう。

イ) 自転車に乗っていて、「ヒヤリ」とした、または「危ない」と思った経験を話してみよう。



WS1-(2)

ウ) 上のCとDの写真を見て、わかること、気づいたことを書いてみよう。

エ) 危険を回避するために、自分たちで工夫できることを話してみよう。

Aくん：この前、通学途中で自動車とぶつかりそうになって……、すごく怖かったよ。

Bさん：私は反対に、自転車に乗っていたら、高齢者の人に衝突しそうになって。本当にヒヤリとしたわ。

Aくん：最近では自転車用の道と自動車用の道が分られている道路が増えているよね。交通安全のための仕掛けがいろいろなところに見られるようになってきたのはいいことだと思うな。

Bさん：道路の環境を整えることはもちろん大事だけど、それ以上に、自転車に乗っている私たちが交通ルールをしっかりと守ったり、安全を意識して自転車に乗ることも重要だよな。

先生：皆さんが話していることは、「安全なモビリティ社会」をどう実現していくかということですね。

皆さんが使っている自転車だけでなく、自動車も含めて、私たちの住む町のモビリティをどう考えるのかは、とても重要な課題です。

例えば、昨今、高齢ドライバーの交通事故が問題視されていますね。

皆さんは高齢者が自動車を運転することと、それに関して高齢者の運転免許返納によって安全なモビリティ社会をめざしていくことについてどう考えますか？



### WS1- (3)

高齢者の運転免許返納について、考えたことを書いてみよう。

### コラム1：高校生と自転車

高校生の重要な移動手段である自転車は、軽車両として車両の中にも含まれるものである。従って、車両（クルマ）に適用される道路交通法の規定や交通規制は、基本的に自転車にも適用される。

自転車を使うときには、車両の運転者であるという自覚を持たなければならない。たとえ、高校生であっても車両を運転する者には「安全運転義務」が生じ、道路交通法を守らなければ罰則が適用されることとなる。

思わずやってしまうようなことでも、例えば左側通行を守らなければ3か月以下の懲役または5万円以下の罰金、二人乗りは2万円以下の罰金、携帯電話を使うと5万円以下の罰金、などである。

また、事故を起こしてしまうと、高額賠償も生じる。裁判所の判断では、高校生であれば、責任能力があり、生徒本人に損害を賠償する責任があるとされている。高校生による自転車事故の場合、9,000万円以上の賠償金額を求められた事例もある。

あなたは、車両の運転者であるという自覚をもって自転車に乗っているだろうか？

## 2. 交通安全の重要性・意義

「交通事故にあわない」「交通事故を起こさない」。このように、安全で安心な社会で暮らしたいと誰もが思っていることであろう。安全で安心な社会を実現すること、つまり事故のない社会をめざす理由のひとつに、交通事故が社会的にも経済的にも大きな損失を与えてしまうという点があげられる。

交通事故は、加害者、被害者だけでなく、それぞれの家族・知人に大きなダメージを与えてしまうものであり、さらに事故の目撃者にも精神的苦痛を与えてしまうことを私たちはしっかりと理解しておく必要がある。

### WS2-(1)

もし、あなたが交通事故にあってしまったら、家族や友人はどのように思うだろうか？

交通事故には、死傷に伴う苦痛、不安、不快など、金額や数値で直接表すことのできない被害（非金銭的損失）が生じてしまう。また「非金銭的損失」とともに、社会全体に与える「金銭的損失」も生じることとなる。

### WS2-(2)

交通事故を起こしてしまったら、どのような金銭的損失が生じるだろうか？

## コラム2：金銭的損失

### ■金銭的損失

金銭的損失は、以下の表に示される項目から計算される。

表：金銭的損失を計算する際の対象範囲

損失の種別		算定項目		損失金額
人身損失		医療費、休業損失、慰謝料、死亡・後遺障害による逸失利益等		1兆7千億円
物的損失		車両・構築物の修理・修繕・弁償費用		1兆8千億円
交通事故の人身・財物に係る損失以外の諸費用	事業主体の損失	死亡・後遺障害、休業等による付加価値低下分の損失		770億円
	各種公的機関等の損失	救急搬送費	交通事故救急搬送に伴う人件費、機材費	6,800億円
		警察の事故処理費用	事故処理に要する人件費、事故処理機材費	
		裁判費用	交通事故関係裁判の歳出費	
		訴訟追行費用	交通事故関係裁判の弁護士の費用、印紙代	
		検察費用	交通業過事件処理に関する歳出費	
		矯正費用	交通事故関係収容者の矯正に関する歳出費	
		保険運営費	損害保険会社の事故調査費用等	
		被害者の救済費用	被害者救済機関の交通事故関連予算額	
		社会福祉費用	交通事故後遺障害者関係の歳出費	
		救急医療体制整備費	救急医療体制の整備費	
		渋滞の損失	渋滞に伴う経済損失、燃料損失	

これらの総額は4兆3千億円と算定されている。内閣府（2011年度）

被害者一人当たりの損失額は、死亡の場合、2億6千万円と報告されている。内閣府（2004年度）

【以下の3つの視点から、交通安全について検討してみよう】

WS2-(3)

A-① 適切なルールの徹底について考えよう

どのようにしたら、交通安全が進むであろうか。

- 
- 

A-② 自転車の運転免許制度<sup>\*</sup>について考えてみよう

自転車の運転免許制度導入に賛成か反対か。その理由も考えよう

- 
- 

<sup>\*</sup>小・中・高校生や高齢者に対して独自に免許を発行している自治体や警察署がある。内容は主に、講習と実技で、それを受けた上で発行されることが多い。ただし、これには法律上の効力はない。また、独自に講習と実技を行い、自転車運転免許証を発行している高校もある。

WS2-(4)

B ルールの周知の方法を考えよう

安全なモビリティ社会実現のために、ルールの周知についてどのような方法が必要であろうか。

- 
- 

WS2-(5)

C 物理的な仕掛けを考えよう

交通事故をなくすために、どのような道路環境の整備を行えばよいであろうか。

- 
- 



イメージハンプ：視覚効果によって立体的なコブのように見せて、車の減速を促す

